

NPO都市災害に備える技術者の会 第1回WG議事録

日時 : 平成 17 年 4 月 18 日 18:00 ~ 20:00

場所 : 神戸まちづくりセンター6F会議室

出席者: 笹山, 三輪, 石川, 太田, 山崎, 片瀬, 伊藤, 林, 藤井, 湯原, 宮本, 松本 (敬称略)

- 配布資料
- ・ 前回議事録 (WG 準備会)
 - ・ 議題及び WG (案) 事務局集約資料
 - ・ WG 活動について 山田 (俊)
 - ・ WG 「小学生・中学生のための建築教室」 西山・中塚・山田 (俊)
 - ・ 中越地震山古志村の宅地地盤復旧について
 - ・ 耐震フォーラム資料
 - ・ 政策提言に関する資料 太田
 - ・ 大阪府土木建築構造物震災対策技術検討会他の目次 湯原

1. WG の活動方針

今回は対策ワーキンググループの初回の会合であり、各人の簡単な紹介と、今後の活動イメージについての意見を交換した。会議では、事前に集約された5つの(案)と湯原会員、石川会員によって提案された合計7つのWG(案)について意見を交換し、手始めとして、次の2つをWGを発足させることとし、他の(案)についても、活動できる条件にあれば、暫時進めていただき、報告願うこととした。

A. まちづくりと防災・減災を考える WG リーダー 三輪

まちづくりを進めながら防災を市民に浸透させる手法として、小学校区を基礎単位として、地域づくりとともに市民の防災力を向上させる方法を提案されている三輪理事の活動を軸にして進める。

B. 津波・地震災害軽減を考える WG リーダー 石川

地震による震度予測図が1kmメッシュ図として、文部科学省から公表された。しかし、この資料は専門家でないと利用しにくかったり、メッシュが大きすぎて自治体レベルでは活用しにくい面があると思われる。このため、この想定図の意味やより小さいメッシュにする方法などを市民、あるいは行政の実務者にわかりやすく普及する活動を行なう。

各WGの活動方法については、リーダーに一任する。WGへの参加は、興味を持ったり、専門性が生かされると考えている会員が自発的に連絡をとっていただくことを基本にする。

なお、前回の準備会では、WGは事前と事後に大きく分けることとしたが、より具体的な内容で活動方針の提案が多くあったので、事前事後にはあまりこだわらなくてもよいのではないかということとなった。

2. その他

出席された会員からは、次のような意見が出された。

- ・ 大阪府で耐震基準が検討されているので何か今後の活動の参考になるのではないかと。
- ・ 技術士同士の研究会ではなく、専門的な技術集団のノウハウを市民に対して発信する組織にしてほしい。たとえば、なぜ家屋の地震診断が必要かを市民に周知し、地震診断の受診率を向上させるようなことから始める必要がある。
- ・ 地盤と建築物の両面から被害を想定したり、アドバイスできるようにすれば、今までにない提言ができる可能性がある。

・WG - A に関連して、防災力という場合、すぐに防災訓練やリーダーの研修会が思い浮かぶが、地域の防災力というのは、たとえば地域の運動会やPTAをとおして、人と人との輪のつながりを強固にしていくことが、いざというときの救命や非難に大きな力となるということである。地域活動を通して楽しみながら親しくなり、集団としての防災力を身に着けるということがキーになるのではないか。

・WG - B に関連して、まず各地の震度予測図の資料を集め、さらに自治体にその活用方法や問題点などをアンケートし、今後の活用について提言をまとめるという方法もある。

・市の職員レベルでは、震災について勉強会をしており、そこから疑問や問題点なども出てくるので、各自治体間で情報交換し、連携ができるような組織作りについても考えている。 - なお、新聞記事の「神戸の絆」は震災後、神戸に支援のため駆けつけてくれた自治体職員のネットを作る動きを紹介したものである。 -

・いろいろな専門技術や防災行政上の知識を持っている方を招き、WG の時にお話いただくのもよいのではないか。

・WG としての集会は月に何回も開くことはできないので、その都度なにか成果が出せるようにし、その積み上げがNPO全体の活動に寄与できるようにしたい。

以上のような意見交換を行なった後、次回の開催を予定通り5月16日(月)より行なうこととして閉会した。なお、次回以降のWGの開催場所と時間については、神戸にこだわらず会員の方で会場のお世話のできる方がいれば、随時ご提案いただくことを確認した。

(議事録作成：林義隆)